

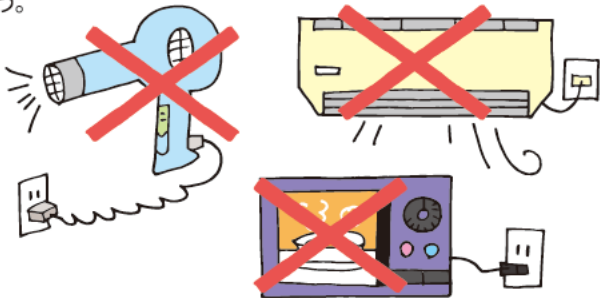
特性 ① 電源について

電気・電源の注意事項を知り、電気炉を安全に使いましょう。

家庭用のコンセントで使用できる電気炉の場合

①他の器具との併用は避けましょう

ドライヤー、電子レンジ、エアコンなど電気を多く使用する電化製品と同時に電気炉を使用すると、ブレーカーが落ちることがあります。電気炉使用時は他の電化製品と併用しないようにしましょう。



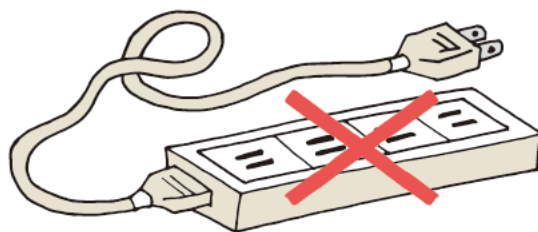
④電圧の低下について

電力供給の良くない建物や、コンセント内部の配線が細い建物の場合は電圧の低下により電気炉が性能を発揮できず温度が上がらないケースがあり、電気工事が必要になる場合もあります。

※特にマイティキルンは高温焼成用電気炉なので電圧の低下が起こる可能性があります。

⑤延長コードの使用はやめましょう

電圧が低下して温度が上がらなかったり、延長コードが過熱して危険です。

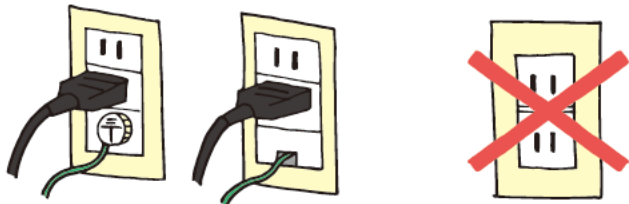


②アース線を接続しましょう

感電防止のためにアース線接続口のあるコンセントにアース線を接続してください。

アース線接続口のあるコンセント

アース接続口のないコンセント



注意! アース線接続口のないコンセントの場合、アースを接続するには工事が必要です。電気工事に依頼してください。

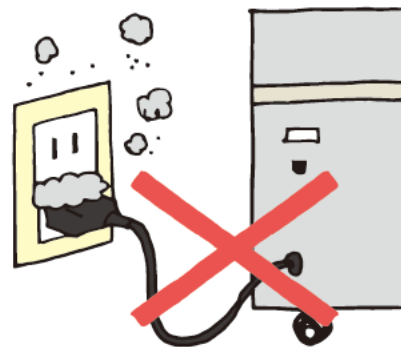
⑥コンセントやプラグはときどき点検しましょう。

プラグは差し込んだままにすると、チリやホコリがたまります。そこに湿気が加わると漏電や火災の原因となることがあります。またプラグが消耗して変形、コゲたりすることもあります。定期的に掃除や点検をおすすめします。

(点検に関してはP18へ)

③15A以上のコンセントを単独で使用しましょう。

ご家庭の壁に取り付けられているコンセント1口(2穴で1口)で使用できる電気の量は15A(1,500W)までです。電気炉は6A~15A(機種により違います)の電気を使用します。これを超えて使用するとコンセントが過熱したり、ブレーカーが落ちる原因となります。



電気工事が必要な電気炉の場合

①電気工事について

電気炉によって工事内容が異なりますので「電気工事資料」を電気工事店に見せお問い合わせください。

※電気工事資料が必要な方はカスタマー本部 TEL.03-3383-0730 にお問い合わせください。

②電気工事費用について

分電盤から設置場所までの距離や契約電力量、諸条件により金額が異なります。電気工事店へお問い合わせください。

③マンションなど集合住宅の電気工事について

マンションなどの集合住宅では許可がないと工事できない場合があります。事前に管理会社や管理組合に確認してください。